

# なはーとダイアログとは

アーティストと観客や参加者がさまざまなことから話し合い、交流し、学び合う場所になることを目指して令和3年度から継続している企画です。

令和5年度は、身近な文化政策の話、ろう者の方々にももっと開かれた劇場づくり、文化に関係する権利や産業としての文化のおはなし、アートは「社会の役に立つか」という議論など多様なテーマで開催してきました。

なはーとは、これからも文化芸術の創造と鑑賞、継承と発展の場であるのみならず、元・久茂地小学校という立地の歴史をふまえて、劇場と地域をつなぐトークイベントシリーズ、「なはーとダイアログ」を開催していきます。

あなたのご参加をお待ちしています！



手話通訳あり



ヒアリンググループ席あり

なはーとダイアログは、より多くの方と対話の機会をつくれるよう、手話通訳とヒアリンググループ席をご用意しています。

「なはーとダイアログ」の最新情報はウェブサイト・SNSでチェック！

なはーとウェブサイト  
<https://www.nahart.jp/>



Instagram  
@nahartdialogue



Facebook  
/nahartdialogue



## 那覇文化芸術劇場 なはーと

〒900-0015  
沖縄県那覇市久茂地3-26-27  
TEL：098-861-7810

開館時間：午前9時～午後10時  
休館日：毎月第1・3月曜日

(祝日又は慰霊の日は開館、直後の祝日でない日休館)  
年末年始 (12月29日～1月3日)

令和5年度なはーと文化芸術事業

# NAHArt なはーとダイアログ DIALOGUE

開催レポート



主催：那覇市 企画制作：那覇文化芸術劇場なはーと・株式会社さびら

# 1 私たちに身近な文化政策とは？ 那覇市議に聞いてみよう！

2023年7月16日開催

ゲスト  
糸数 貴子 外間 ゆり  
中村 圭介 前田 千尋  
普久原 あさひ  
金城 亮太 ※ビデオ出演



第1回は、「私たちに身近な文化政策とは？那覇市議に聞いてみよう！」というテーマで、文化・芸術分野に関して議会で活発な発言を行っている那覇市議会議員のみなさんとお話を伺いました。

ゲストのみなさんには「自分と文化・芸術」をテーマに、思い入れのある物をひとつずつ紹介してもらいました。これは手作りの紅型が表紙の卒業文集だそう。



直近3年間の議会での文化・芸術に関する発言をAIを活用して可視化しながら、それぞれが「文化」「芸術」「芸能」について、どう捉えているのか、どんな取り組みをしていきたいのかななどを深掘り。



私たちの生活と文化・芸術のつながりを確認しながら、より豊かな那覇市の文化・芸術を育む方法を検討していききました。議員一人ひとりの文化への愛が伝わる会になりました。

### 参加者の声

- 「政治家」のイメージが、文化芸術を通して変わりました。政治とアートという関係性が、実は近いのではないかと発見できました。(30代、那覇市在住)
- このような市議会議員の方と対話できる機会がなかなかないので、こういった話をきけてありがたいです。(10代、浦添市在住)

# 2 みんなのための劇場とは？ 文化施設におけるバリアフリーの現在地、そして未来を考える

2023年9月18日開催

ゲスト  
(一社) 沖縄県聴覚障害者協会  
会長 城間 枝利子  
副会長 比嘉 豪  
事務局長 牧志 正人



イベント前には、ゲストのみなさんと、なは一との施設を見学。手話通訳の見え方や緊急時の対応等、気付いた点をご共有いただきました。

第2回は、沖縄県聴覚障害者協会の方々をゲストにお招きし、主にろう者の立場から、より多くの方が文化施設へとアクセスできる・活用できるようにするために何ができるかについて考えました。



比嘉さんによる基調講演では、手話による落語や写真コンテストなど、豊かな「ろう文化」の活動についてご紹介いただきました。

最後は、参加者全員で手話の拍手で終了。さまざまな人に使いやすい施設やイベント運営のヒントをたくさんいただきました。

「ろう文化」に親しめるイベントをなは一でも開催していきたいですね。



### 参加者の声

- 自身も障がい者だが聾の方がゲストのトークイベントに初めて参加した。ひとえに障がい者といっても多様で、個人差もあるので、もっと障がい者の方の話をたくさん聞いてみたい。(20代、那覇市外在住)
- 文章よりも手話の方が伝わる情報が多いということは新たな気づきでした。イベントの周知についても学びがありました。私自身の自己紹介や仕事に関することだけでも手話でできるようになりたいと思った。(30代、那覇市在住)

# 3 権利としての文化産業としての文化 那覇市長 × 東大教授 × アーティストの対話



2023年11月19日開催

ゲスト  
小林 真理 (東京大学大学院文化資源学専攻教授)  
上原 沙也加 (写真家)  
福地 リコ (映画制作者・ライター)  
コメント：知念 覚 (那覇市長)



第3回は那覇市長、文化政策の専門家と那覇の若手アーティストをまじえて、市民や表現者の「文化の権利」と、持続可能な「文化の産業化」について考えました。

まずは小林教授から「権利としての文化」と「産業としての文化」をテーマに文化芸術基本法やコロナ禍における文化・芸術活動の変化などを事例に、日本の文化政策に関する取り組みについて講演をいただきました。「どんな伝統文化でも、生まれた最初は現代アートだった」という印象的な言葉も。



アーティストによる「なは一とカンファレンス」の報告では、制作現場のパワハラや労働環境等の問題の共有に加え、より良い制作環境に向けた提案などが共有されました。

知念市長からは「文化を育む土壌を作っていくことが大事。那覇市全体の風土として行政が音頭を取って文化を大切に作る街にしていく」というコメントもありました。

### 参加者の声

- 文化芸術を公が支えていくためにできる可能性をお聞きできて良かったし、学びになりました。(30代、那覇市在住)
- 大変良い機会でした。公共の文化施設や行政が文化に取り組む上で、とてもよい取り組みだと思います。何より、市長さん自らがこういう場で積極的に文化について語っていらっしゃるのが希望だと思いました。多くの市民の方が来場されていたのもよいなと思いました。(30代、石川県在住)

# 4 アートは社会の役に立つ？ 立たなくてもいい？

2024年1月14日開催

ゲスト  
新垣隆吾 (美術教員/写真家)  
平良優季 (画家)  
宮城潤 (若狭公民館 館長)



第4回では、さまざまな分野で利用されることも多いアートが私たちの生活に与える影響について考えていきました。

登壇者はそれぞれ画家、美術教員、コミュニティ運営者などの視点から、アートに対する捉え方を会場と共有していただきました。



新垣さんからは、教員の立場としてどう考えているかや、教育にデザインスキルを取り入れた「神山まるごと高専」の視察について。平良さんからは、自身の作品を紹介しながら、制作にどう向き合ってきたかについて。宮城さんからは、前島アートセンター・若狭公民館などの事例を紹介していただきました。



会の途中では休憩を長めにとって、観客同士やゲストとの意見交換ができるようにしました。その後の質疑応答でも、アートが役に立つとは？アートの役割とは？など、さまざまな意見がかわされました。

### 参加者の声

- フェアであることに私自身もっと自覚的でありたいし、社会の側がフェアになるような働きかけをもっとしていきたいと思います。不要不急とするのに、簡単にアートの力、アーティストに頼ろうとすることの暴力性に改めて気づききっかけになりました。(40代、那覇市在住)
- 私自身が、アートと一緒に役立ちたいという思いを見つめることができ良かったです。役に立ちたい、役に立っていると認められたい。それと、評価は別にしなきゃと考えています。(30代、那覇市在住)